

第10回六アイ自然観察会報告

【日時】2022年2月27日（日）午前9時半～正午

【場所】アイランド北口駅集合→シティヒルイースト→梅林→マリンパーク→野鳥園。

【参加者】島外の2人、まち協の高橋委員長、南賀副委員長、藤原委員、小川委員、藤田委員、取材のJ-COM 小山さん含め45人。コロナ対策のため各街区での張り出しなど宣伝を控えたが、結構な人数になった。J-COMの事前のお知らせが効いたか。

【講師】植物にも詳しい日本野鳥の会会員（元朝日カルチャーセンター・読売文化センター講師） 松下猛さん。

【天候】晴れ。風がやや強かった。

【内容】 万が一のクラスター対策として、参加者に名前と連絡先電話番号を記入する用紙を配り回収した。その後、一昨年にまち協が発行した「六甲アイランドの鳥たち」簡易鳥図鑑、2014年に自治会が発行した「まち情報ハンドブック」の中にあるシティヒル内の植物案内図を資料として配布、書き込み用の鳥リスト用紙を渡して観察を始めた。前回に続いて今回もコロナ感染防止のため、参加者にのぞいてもらう双眼鏡やフィールドスコープ（望遠鏡）を用意することは取りやめた。この日見た鳥は計17種類で前回（11種類）よりは多かったが、少な目だった。風が強く鳥が出てこなかったためと思われる。それでも梅林ではメジロが吸蜜するのをゆっくりと見ることができ、北帰行間近のツグミ、マガモといった冬鳥も観察できた。六甲アイランドに來ている絶滅危惧種ハヤブサやA O I A跡地の草原にいる珍鳥タカサゴモズにはあいにく出会えなかった。鳥が少なかった分、講師は植物観察に力を入れ、サザンカとツバキの違い、ナワシログミやユズリハの名のいわれなど、知っているようで知らない知識を説明した。また梅にウグイス、松にツルと言った、「常識」の誤りも改めて解説した。

最後にこの日見た鳥をみんなで確認し合う「鳥合わせ」を行って解散した。

【その他】この日の模様はJ-COM 六甲アイランドアワーで2日放映された。

